

- 1 単元名 民話や昔話の楽しさを見つけよう。 「三年とうげ」
- 2 単元の目標
 - 場面の様子や登場人物の気持ち、人柄を想像しながら読みとる。
 - 民話や昔話の楽しさを友達に紹介する。
- 3 指導計画（全10時間）
 - 第1次 題名読みをして作品と出会い、全文を通読する（1時間）
 - 第2次 三年とうげを読みあらすじをまとめる。（5時間）
 - 第1時 本文を読んであらすじを一文で表し、問題を作る。
 - 第2時 三年とうげのようすや病気のおじいさんの様子を読みとる。
 - 第3時 どうしておじいさんが安心したのか考える。
 - 第4時 だれが歌を歌ったのかを考える（本時）
 - 第5時 友達どうしで好きな場面を紹介する。
 - 第3次 紹介してもらった楽しい話を読む。（2時間）
 - 第4次 楽しい本を読み友達に紹介する。（2時間）
- 4 指導上の立場
 - 教材について

「三年とうげ」は起・承・転・結の形を取っており、昔から語り継がれてきた、昔話や民話の特徴を伝えている。リズム、テンポのよさに加えて、最後の場面にはなぞかけもあり、楽しく読める教材である。挿し絵も充実しており、自力でイメージをふくらませることができる。

また、トルトリの巧みな機転で、不幸を幸運に転換する展開は、なぞなぞごっこやとんち話にも似たおもしろさを伝えている。
 - 児童の実態

削除しています。

○研究主題との関わり

本年は「言葉の力を育てる授業のあり方」についての研究2年目である。昨年度は「言葉の力」を育てるための授業について、赤木先生に授業の方向性について教示していただき、基本的な考え方について研究してきた。

その中で、重要なことは「習得と活用」である。習得させるべき「言葉の力」をはっきりとさせ、活用につなげるような授業の展開が求められている。

本単元では、つけたい活用する力としては、

「民話や昔話の楽しさを見つけ読むことができる。」ことである。

そのために、本単元の指導にあたっては以下の指導を行い楽しさを読むために、以下の観点について習得できるように指導したい。

- ・民話の表現技法の理解と場面の様子や心情を読みとる。
- ・物語のあらすじをまとめ、物語の展開を考える。
- ・問いかけの部分を想像し、物語を内容の読みとりを深める。
- ・ほかの物語や民話を読み、物語の楽しさを紹介する。

本時は、問いかけの部分を想像することにより、自分の考えを深め、また、他者の考えに気がつく場面である。

5 本時案

<p>目 標</p>	<p>だれが何のために歌を歌ったのかを考え、自分の考えを発表することができる。</p>	
<p>学 習 活 動</p>	<p>教 師 の 支 援 と 工 夫</p>	
<p>1 本時のめあてを持つ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習場面を音読する。 ・あらすじを振り返り、本時の学習課題を知る。 ・学習課題を簡単に考えさせる。 	
<p>だれが、何のために歌をうたったのか考えよう。</p>		
<p>2 課題を自分で考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・どこから聞こえたのかを押さえておく。 ・自力解決をする。 ・自由に考えをふくらませる。 	
<p>3 自分の考えを発表し話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を発表し、話し合うことによって様々な意見を考える。 ・多くの意見を考えるようにする。 	
<p>4 昔からの言い伝えの歌の意味を考える。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・歌の違いを考え発表する。 ・あらかじめ歌を印刷しておき、比較によって考えやすくする。 ・それぞれの場面の歌を気持ちが分かるように音読する。 	
<p>5 文章の構成について話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、問いかけの文がなかったらどうか話し合い、文章の構成についてもふれる。 ・起承転結の後の、発展的な部分であることにふれる。 	